

2025/11/27 (木) 10時30分～ 八幡市新庁舎視察（説明後、各フロア視察）

■八幡市職員5名 ■橋本市庁内部会6名+政策企画課3名 ■コンサルタント同行2名（NEWJEC）

## 検討・整備の経過

主な年度経過

年月	進捗
平成30年3月	八幡市新庁舎整備基本計画を策定
平成30年10月	新庁舎整備にかかる市民ワークショップの開催
平成31年	基本設計完了
令和2年	実施設計完了
令和5年	開庁
令和7年	付帯施設（駐車場・防災ひろば等）整備中

## 総事業費

総事業費 88億円

## 事業手法

基本設計先行型DB方式（実施設計・施工一括）



## 事前質問補足・質疑応答

## 建設場所選定

- ①耐震改修案、②現地建替案、③別敷地建替案の3パターンで比較・検討。
- ③別敷地建替案については、候補地を増やしすぎても検討が難しくなるため、高台にある男山地区の旧小学校跡地のみを別敷地の候補地として選定。
- ①耐震改修案は、ライフサイクルコスト、改修後の執務スペースへの制約が多いことから、早い段階で選択肢からは外れた。
- ③別敷地建替案の候補地である旧小学校跡地は最寄り駅と呼べる駅がなかった。
- 議会での意見一致が難しかったため、最終的な判断は市で行ってほしいとの意向であった。（市長一任となった。）
- 利便性が高く市民が慣れ親しんだ場所であることから、②現地建替案に決定。
- 現庁舎敷地で建替える場合、防災拠点として整備を行うこと、財源として地方債を活用できる点を市民の方にご説明したため、新庁舎を浸水想定区域に建てることに対して、市民からの大きな反対意見はあまりなかった。
- 建設場所の決定まで1、2年かかった。
- 現庁舎敷地と高台の旧小学校跡地はすべて市有地で、借地はない。

## 付帯施設（防災ひろば）

- 駐車場の上を公園（防災ひろば）にした経緯について、基本設計段階で旧庁舎をどのようにするかを検討していた。
- 新庁舎建設位置は、元は駐車場であったため、その分の駐車場は必要となったが、市の想いのある（市民の慣れ親しんだ）場所を駐車場のみで活用するのではなく、他に市民のための広場等を作ることも考えてはどうかとの進言がアドバイザー（京都大学教授）からあり、いまの方向性となっている。
- 基本的な使い方について、防災のためのテラスとしながら、様々な人が多目的に使えるような広場（イベントができる等）とすることを想定。地震などの場合、物資保管等の場としても機能することも考慮に入れている。
- 事業費は解体工事を含めて30億円程度。緊急防災・減災事業債を活用して建設。



## 事前質問補足・質疑応答

## 浸水時の災害対応

- ソフト面での対応を整理した計画について、八幡市業務継続計画（令和7年9月）を策定。基本的に庁舎が機能する前提で整理されたものとなっている。水害が発生してから周辺一帯が浸水するまでの動きについても記載している。
- 避難対応について、受援計画（令和7年7月）を策定。
- 水害発生時、最初に現庁舎敷地に停めてある公用車を高台に移動させる。また職員の車も、高台に移動させる。
- 災害対策本部は本庁舎の5階に設定するが、実働部隊は公用車を移動させた先に配置し、連携を図りながら対応を行う。
- 浸水時の代替庁舎となる場所を設定している。（第1位：八幡市立生涯学習センター、第2位：八幡市男山レクリエーションセンター、第3位：八幡市立美濃山小学校）
- 近隣の久保駐屯地に架橋中隊が配置されており、支援が受けられやすい状況。周辺一帯が浸水してしまった場合はボート対応となる。
- 周辺一帯が浸水している時には、高台の代替施設にて市民への窓口対応を実施する。代替施設への誘導は、防災アプリ、SNS等を使って市民へお知らせする。（市のWi-Fiができれば業務ができる。）
- 京都京阪バスと提携しており、市民の高台への避難は支援を受けられる。
- 緊急参集職員について、30分以内に出てこられる職員は23%程度。水害の場合は到達時間等の予測を立てて動くことになる。
- BCPについて、4号（職員全員参集）は避難所開設までに実施している。
- 浸水の様相として、40時間程度で水が引く想定。
- 消防庁舎も浸水想定区域内にあるが高台に上げる等の対策はしていない。
- 高山ダムの整備や内水整備が行われて以降、危険水域に至ったことはないとのこと。更に八幡排水機場が整備されたことにより内水もコントロールが可能になった。平成25年頃に腰高までの水位で浸水して以降、大規模な水害はない。
- ダムの緊急放流の考え方も踏まえて庁舎を建設している。緊急放流時、八幡市では7時間後、橋本市では2時間後に浸水。
- 非常用発電機用のオイルは1週間対応できる量として算出している。
- ヘリポートの位置づけについて、庁舎が避難施設ではなく指令機能を持つことから、応援部隊の受入れ・万一の逃げ遅れた方の救出を目的としている。自衛隊との協議により、当初検討していた規模よりも大きなもの（6.5t）としている。
- 雨水貯留槽は効果が薄いと判断され、採用しなかった。

## 財源

- 公共施設適正管理推進事業債を活用（市町村役場機能緊急保全事業の期限が令和2年までだが、実施設計に着手していたため活用することができた。）
- 庁舎に充てるものとして、年度ごとに額を設定し繰入金を毎年積みむことで、財源を確保した。
- 一時期、他の公共施設の建設事業を制限し、支出を減らすことで財源の積み上げを行った。（全国の中でもワースト2、3位になるぐらい建設事業を減少させた。）

## DX等全般

- ファイリングシステム、DX等については、庁内でプロジェクトチームを設定し検討した。検討・協議は基本設計時点で実施。
- 総務部に一部新庁舎での執務スペースのモデルルームを作った。既存庁舎にいる時から新しい環境に慣れておくこと、リアルに検討することはとても良い取組みに思う。
- 新庁舎に引越すまでの準備期間がとても重要。引越しまでの間、書類などの削減目標値を設定し、書類削減を行ったため引越しをスムーズに行えた。
- 一番参考にした庁舎事例は、渋谷区役所。ワンストップについても検討したが断念し、2階を中心に窓口を集めることで工夫した。（新庁舎への移転に合わせて組織の見直しを行った。）
- ファイル・書類保管に関しては、部署によりうまくいくところ・いかないところが生まれる。（部署によっては、書類がまだ紙で届くところもあるため、保管場所に困っている。）ペーパーレス化については十分な検討が必要かと思う。倉庫も減らすこととしたが、結果外部に設けている点が改善点としてある。
- フリーアドレスは導入していないが、他部署との連携はとりやすいレイアウトにしている。

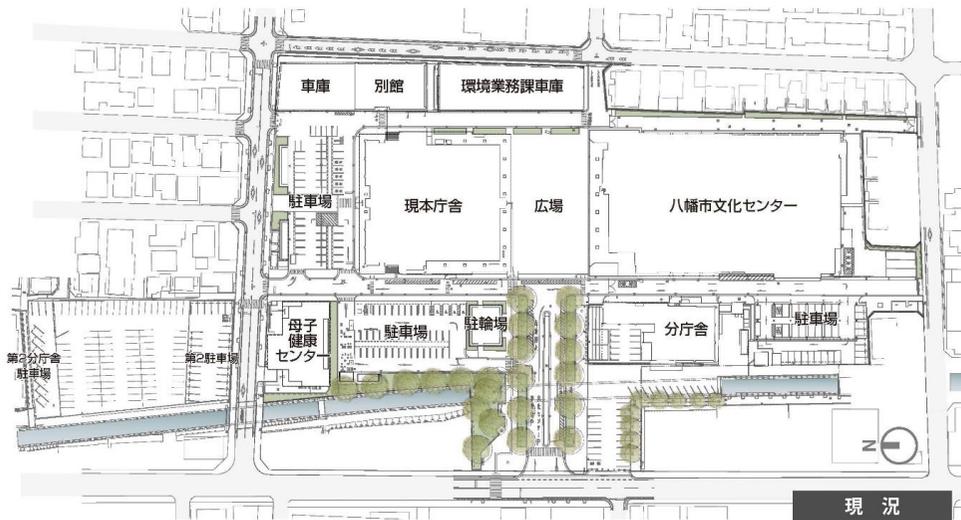
## その他

- 執務室は、見える（見られる）ことによる魅せる化を図り、書類・物品等の管理を進めている。モバイルロッカーや個別のワゴンなどで機器・私物を管理。個別のロッカーを設けないことで面積削減を図っている。
- 市民プラザ（3階、4階）ではイベントや会議等を実施。フェーズフリーにより災害時にも使えるようになっている。
- BIMを活用、BEMSを導入している。BEMSはクラウド型を使っており、市から別途委託している管理会社から随時情報共有される流れ。

橋本市庁舎整備基本構想・基本計画 八幡市新庁舎視察

施設概要

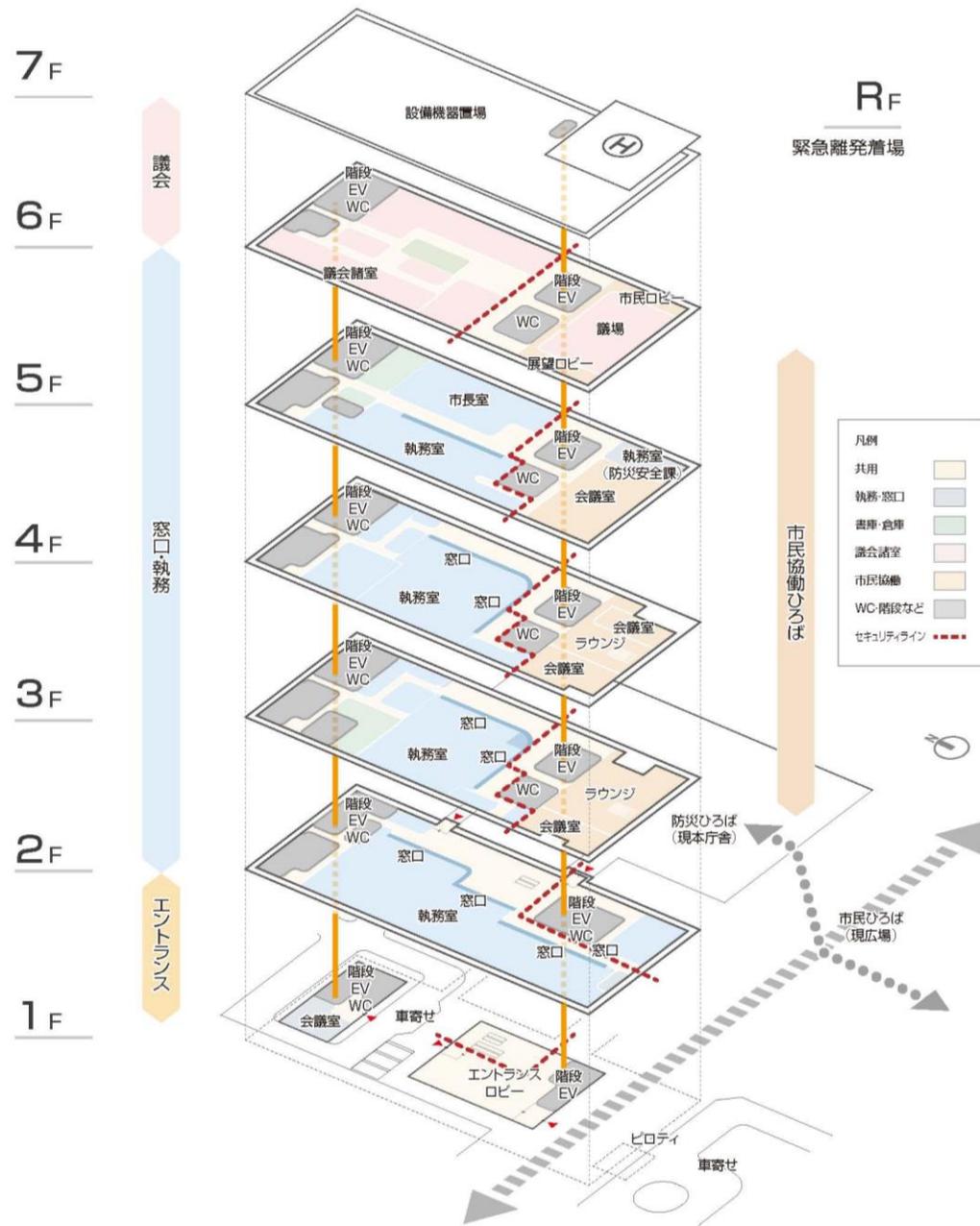
延床面積	11,496.8㎡
建築面積	2,232.2㎡
敷地面積	25,485.0㎡
階層	地上7階
構造	S造・RC造（1階柱頭免震）



現況



整備後



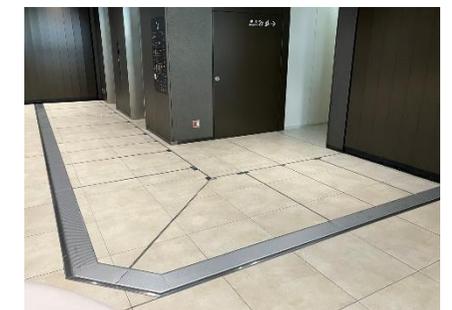
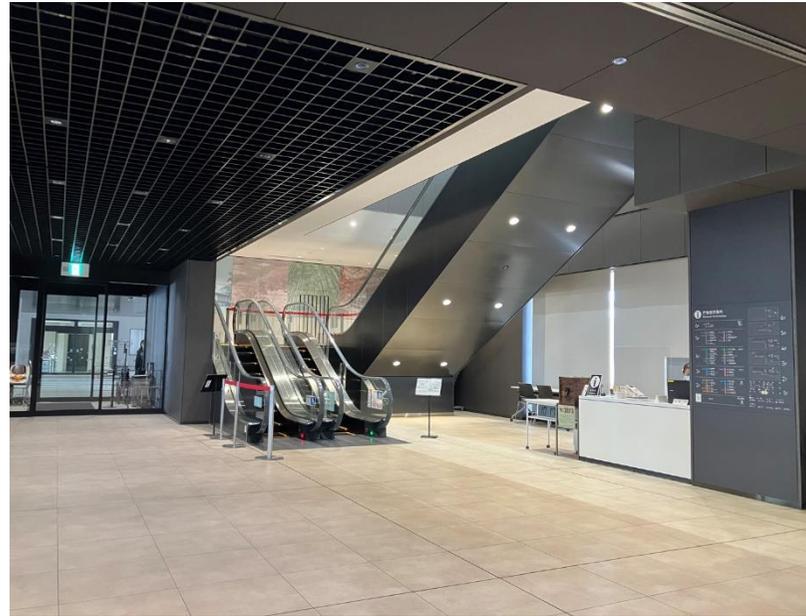
新庁舎写真



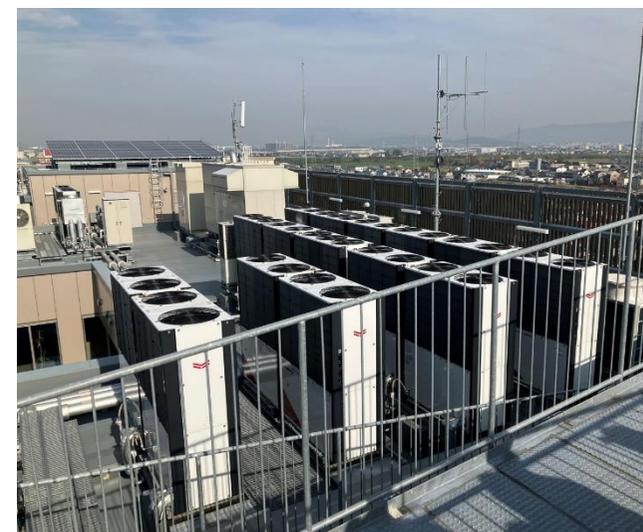
新庁舎写真



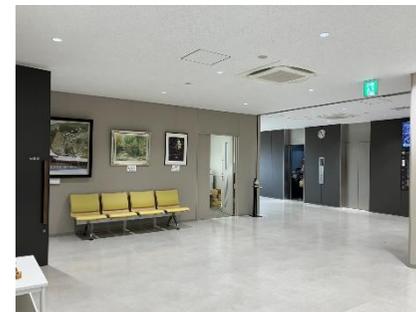
新庁舎写真



新庁舎写真



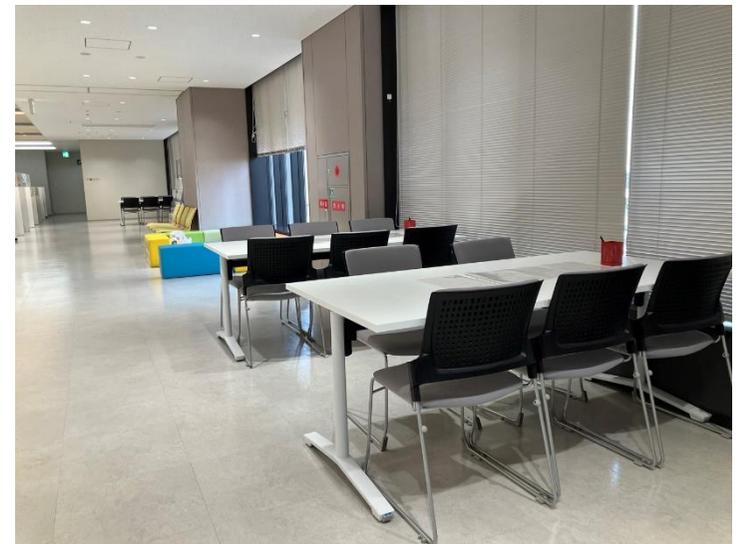
新庁舎写真



新庁舎写真



新庁舎写真



新庁舎写真

